

2024

7/2  
TUE

No.

439



マーケットレポート

# Weekly Market Report



## 財政緩和で減殺されるFRB利上げ効果

米FRB利上げサイクルが財政緩和で相殺され、フィラデルフィア連銀サービス価格が2年ぶり高値に上昇しシカゴ連銀の全米活動指数がプラス転換、ケースシラー住宅価格は過去最高値を記録しシカゴ連銀Financial condition（金融環境）が一貫して緩和状態にありボウマンFRB理事やミネアポリス連銀カシュカリ総裁の「年内利下げなし」論が説得的となりつつあるようだ。

### 「年内利下げ困難視」タカ派ボウマン理事

ある米系投資家によれば、「FRB引き締め効果が財政緩和によって相殺され、インフレ高止まり、過去数四半期GDP平均2.9%、潜在性成長率1.8%を上回るアトランタ連銀「GDP Now」4-6月期3.0%成長予想など24年中の米利下げの可能性は低い」という。

そして、タカ派ボウマンFRB理事が6月25日ロンドン講演で「まだ政策金利引き下げに適切な地点にはない（“We are still not yet at the point where it is appropriate to lower the policy rate.”）」、「経済見通しを巡るリスクと不確実性を踏まえ、私は未だ政策スタンスの将来的な変更を検討するアプローチにおいて慎重姿勢を保つ意向だ（“Given the risks and uncertainties regarding my economic outlook, I will remain cautious in my approach to considering future changes in the stance of policy.”）」と語り米FRB「higher for longer（より高くより長く）」戦略の必要性を声高にした。

ボウマン理事は講演後の討論会で、年内の利下げは見込んでいないとする5月10日の発言を繰り返し、コロナ禍のサプライチェーン混乱は解消したものの、1) 最近数カ月の労働参加率の伸び悩み、2) 労働供給を押し上げ労働需給改善に寄与した移民流入への制限的アプローチ、3) 一部地域の移民流入が賃料上昇をもたらすリスク、4) 財政支援一途インフレの潜在的リスクを挙げた。確かに、軟化はしているものの労働市場は堅調で賃上げリスクが残り、地政学的リスクはイスラエル・ヒズボラ対立激化リスクとなって原油を下支える。何より、財政刺激策が利上げ効果を相殺し、米株「強気」相場や住宅市場の堅調が金融情勢（Financial condition）の緩和を促し続けている。実際、シカゴ連銀「Financial condition（金融情勢）」指数は22年3月から23年7月への過去最速5.25%への苛烈利上げにも

拘わらず米国株の上昇や住宅市場の堅調により一貫してマイナス（緩和状態）にある、家計資産はコロナ禍の給付金や賃金の伸び、株式市場と住宅市場の好調を背景とした過去数年間にわたる全ての所得階層で大幅に増加している。

### シカゴ連銀「全米活動指数」予想外のプラス転換

ある米系投資家によれば、「米GDP統計や雇用統計、CPIインフレ指標などが注目されるが、ベテラン投資家ほど米経済指標の中でシカゴ連銀の全米活動指数（CFNAI）を最重要の指標だと考えている」という。

その重要指標である6月25日発表の米5月シカゴ連銀CFNAIが+0.18とマイナス予想（-0.25）を覆す想定外の上振れプラス転換となってボウマンFRB理事のタカ派発言の正当性を支援し、この日の米10年債利回りは4.21%から4.23%付近へと上昇した。全米活動指数は経済生産高総合指数（EOCI）算出に不可欠な指標であり、米FRB地区活動指数やシカゴPMI（購買担当者景気指数）、ISM（全米供給管理協会）、全米独立企業調査連盟、先行経済指数など種々広範なデータで構成されており、米実体経済をよりの確に反映する指標として定評がある。

さらに、一方、S&Pグローバルが6月21日公表したサービス業PMI（購買担当者指数）速報値が+0.3ptの55.1と22年4月以来の高水準となり改めて米景気の堅調さを浮き彫りにした。「需要の高まりが引き続き経済に浸透し、活動の上向きは広範囲に及び、力強い消費を反映してサービス業が牽引している」（S&Pグローバル）とされ、サービス業だけでなく製造業PMIも51.7と前月51.3から上昇する堅調さを示した。

さらに、6月25日発表の米4月S&Pコアロジック・ケースシラー住宅指数も320.42と1987年の統計開始以来の最高値を記録、都市別ではサンディエゴが前年比+10.3%、NY市+9.4%、シカゴ+8.7%上昇と全主要20都市で前年同月を上回って改めて金融引き締め効果の希薄さを露呈した。なお、米6月フィラデルフィア連銀「製造業景況指数」（Philly Fed June 2024 Manufacturing Business Outlook Survey）個別項目「支払価格（prices paid）」が前月比+4ptの22.5へ上昇しインフレ高止まりを明示したことは言うまでもない。

# 目次

|    |                |
|----|----------------|
| 2  | 「潮流底流」         |
| 3  | 目次 / 今週の注目イベント |
| 4  | 世界金利マップ        |
| 6  | 国内概況           |
| 7  | 米国概況           |
| 8  | 欧州概況           |
| 9  | ドル円 為替展望       |
| 10 | 中国概況           |
| 11 | 豪州概況           |
| 12 | ブラジル概況         |
| 13 | トルコ概況          |
| 14 | ロシア概況          |
| 15 | インド概況          |
| 16 | 日本株 注目スクリーニング  |
| 17 | 日本株 注目カテゴリー    |
| 18 | 日本株 注目銘柄1      |
| 19 | 日本株 注目銘柄2      |
| 20 | 日本株 注目銘柄3      |
| 21 | 日本株 注目銘柄4      |
| 22 | 日本株 注目銘柄5      |
| 23 | 経済指標発表         |

## 今週の注目イベント



(米)5月貿易収支  
7月3日(水)午後9時30分発表予定

(予想は、－712億ドル) 参考となる4月実績は－746億ドル。輸入増加で赤字幅は拡大した。5月については、輸出増加は期待できないものの、輸入額がやや減少するとみられており、赤字幅は縮小する見込み。

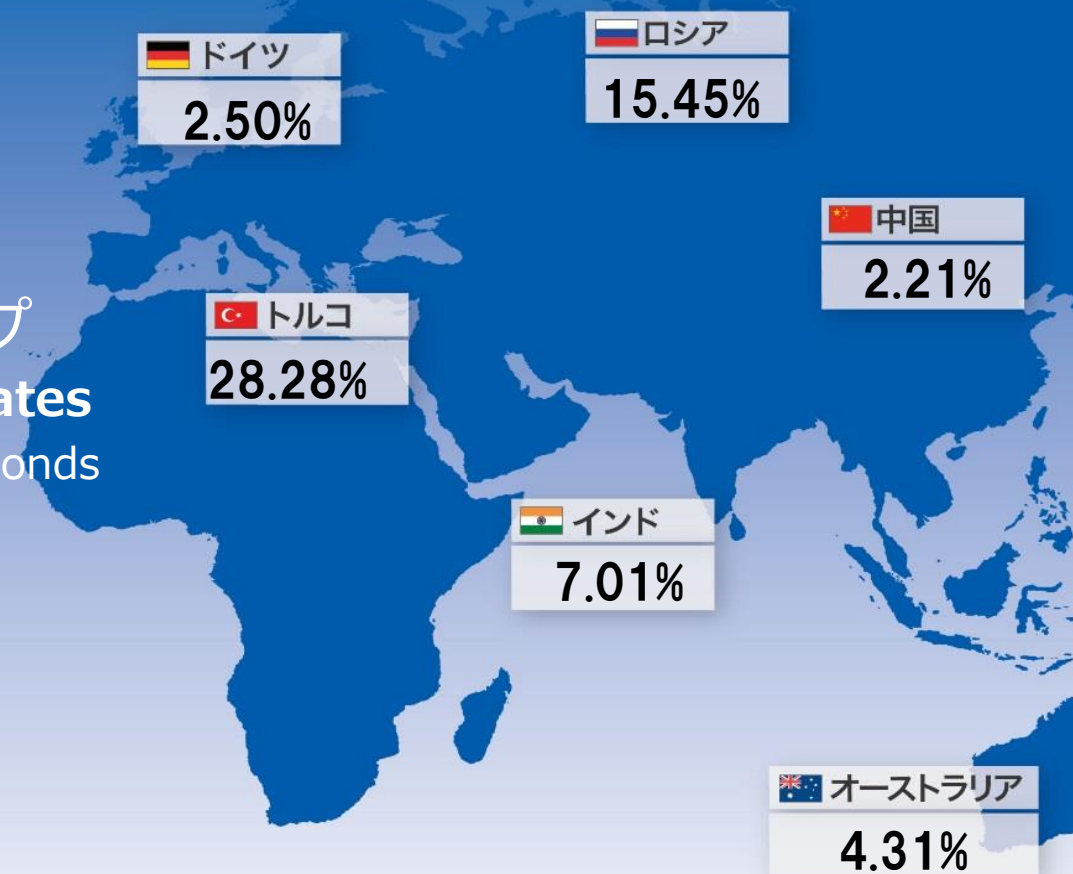


(米)6月雇用統計  
7月5日(金)午後9時30分発表予定

(予想は、非農業部門雇用者数 前月比+18.5万人、失業率4.0%) 雇用者数の増加幅は5月実績を下回る見込みだが、労働市場の急速な減速を示唆するものではないとみられる。失業率は5月と同水準になると予想されるが、年末にかけてゆるやかに上昇する可能性が高いとみられる。



## 10年国債金利マップ The Map of Interest rates for 10 years government bonds



## 世界ニューストピックス

### 米国産牛肉高騰、調達に苦戦＝円安と供給減響く ―国内業者

2024年6月29日

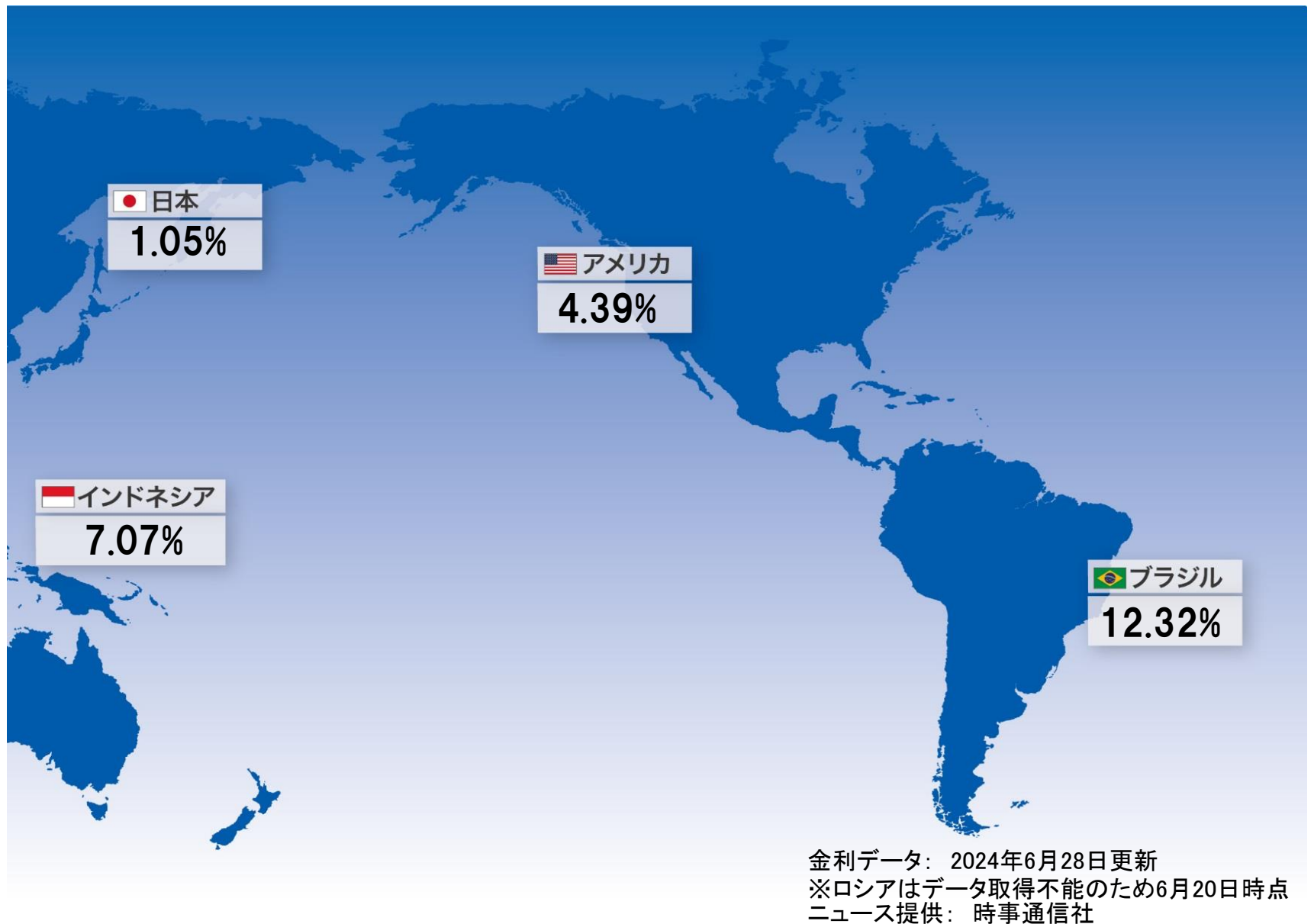
焼き肉店などで人気のある米国産牛肉が高騰している。歴史的な円安水準と米国の供給減少が重なった上、外国との競争も激しく、輸入価格は上昇。商社など国内業者は調達に苦戦している。安価な牛肉を求め、調達先を広げているが十分な手当ては難しい。節約志向を強める消費者にとって、手頃だったはずの輸入牛肉は手が出しにくい状況が続きそうだ。日本の輸入牛肉は、米国産への依存度が高い。年間輸入量50万～60万トンの4割を占め、その代表格は牛丼店や焼き肉店で主力の冷凍バラ肉。農畜産業振興機構によると、5月の卸値は前年同月比6割高の1キロ当たり1436円と、1993年の統計開始以来、最高値に達した。値上がりは、円安と米国の減産が主因。米国では牛の頭数が周期的に増減する自然サイクルの減少期にある。さらに、メキシコや韓国などとの争奪戦で価格は強含み、食肉業界の現場からは「高過ぎて手が出ない」といった声も聞かれる。米国食肉輸出連合会（USMEF）の関係者は「日本は円安で不利な上、他国に比べて市場の成長性や価格提示の面で購買力が落ちている」と話す。米国産に代わり、日本勢が活路を見いだすのは割安なオーストラリア産の輸入拡大だ。ただ、米国が減産分を補おうと自国通貨高をてこに買い進めており、豪州産でも劣勢に立たされている。輸入牛肉を扱う外食チェーン店では、調達先をカナダや南米に広げる動き

や、「牛肉以外で柱となる商品開発の取り組み」（吉野家ホールディングス）など、コスト抑制や客離れの食い止めに懸命だ。ただ、輸入環境の改善は当面期待しづらく、業界内で「値上げはやむなしとの判断が広がる」（外食大手）可能性は否定できない。（C）時事通信社

### 「ビジョンプロ」日本上陸＝AR対応-google 型端末―米アップル

2024年6月28日

米アップルは28日、日本国内の直営店で、拡張現実（AR）に対応した-google型端末「ビジョンプロ」の販売を開始した。現実世界の風景にデジタル情報を重ねて映し出す仕組みで、オンライン会議やゲーム、動画鑑賞などに活用できる。米国では既に2月に発売していた。価格は59万9800円から。ビジョンプロは目や手の動き、声だけで操作することが可能。ユーザーの目を-googleの外側に表示する機能も搭載し、装着したままでも他人とコミュニケーションを取りやすくした。東京都渋谷区の直営店では、予約客が端末を装着し、機能を試していた。製品を購入したアプリ開発者の清水大輝さんは「大画面で作業できるので、仕事で使うのが楽しみ。スマートフォンの次の存在みたいになると期待している」とうれしそうに話した。（C）時事通信社

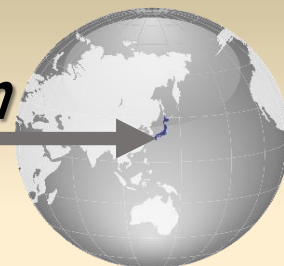


## IMF、米利下げは年末に＝インフレ再燃なら利上げも

2024年6月28日

【ワシントン時事】国際通貨基金（IMF）は27日公表した対米経済審査で、インフレ上振れリスクを踏まえ、連邦準備制度理事会（FRB）に対し、「少なくとも2024年末まで」利下げを待つ必要があると勧告した。また、インフレ再燃なら、追加利上げ検討を求められる可能性も指摘した。インフレ鈍化の停滞を背景に、FRBの利下げ時期を巡る予想が後ずれ。日米金利差が意識され、円安・ドル高が進行。円は1ドル＝160円台に下落し、日本政府・日銀の為替介入に対する警戒感が強まっている。IMFは声明で、「持続的なインフレ低下に関する明白な証拠を確認して初めて利下げするのが賢明だ」と指摘。今後の指標でインフレ加速が示される場合、「利下げバイアス撤回や追加利上げを真剣に検討する必要がある」と強調した。ゲオルギエフ専務理事は記者会見で、FRBが0.25%幅で年内1回の利下げを予想していると明言。また、対ドルでの通貨下落が「各国のインフレとの闘いを難しくしている」との懸念を示した。IMFは一方で、FRBが重視するインフレ指標、個人消費

支出（PCE）物価指数の上昇率が低下し、25年半ばまでに目標の2%に低下すると予想した。ゲオルギエフ氏は、IMFが米国のデシインフレ進行に関しては「FRBよりも若干楽観的だ」と言及。背景として、コロナ禍での貯蓄増を受けた消費押し上げ効果の剥落による需要鈍化などを挙げた。IMFはまた、米国の債務膨張を警告。現行の政策が続けば、2032年までに米国の州などを含めた一般政府負債の残高は国内総生産（GDP）比で140%を上回るとの推計を示した。24年見通しは123.2%とされた。ゲオルギエフ氏は経済が堅調な今こそ「将来のリスクに備える好機だ」と言明した。IMFは、年間収入40万ドル未満の中間層を含めた個人所得税の累進的な引き上げなどを慎重に検討する必要があると訴えた。11月の大統領選を控え、バイデン政権は富裕層や大企業への課税強化を目指す一方、年収40万ドル未満に対する増税を否定。これに対し、共和党の候補指名を確定させたトランプ前大統領は、25年末に失効する大型減税の恒久化を主張しており、財政健全化への機運は見受けられない状況だ。IMFは24年の米成長率が2.6%と、4月時点の予想から0.1ポイント下方修正した。（了）（C）時事通信社



## 5月鉱工業生産は市場予想以上に上昇へ

経済産業省が6月28日に発表した5月の鉱工業生産指数は103.6となり、前月比2.8%上昇した。2カ月ぶりのプラスとなり、市場予想の2.0%上昇も上回っている。全15業種のうち13業種が上昇し、伸びが最も大きかったのは自動車工業、前月比18.1%上昇している。

### 日経平均は上昇、円安進行などが支え

上昇。為替相場の円安進行などが支えとなって週初から買いが先行した。国内長期金利の上昇を背景に保険や銀行などの金融関連が大きく上昇し、週末にはTOPIXが一時年初来高値を更新している。半導体関連も、前半の米エヌビディア続落、マイクロンの売上高見通しなどマイナス視される場面があったものの、週を通してみると堅調推移となっている。

### 日経平均、今週は神経質な展開か、国内外の政局動向などを見極めへ

神経質な展開か。国内外の政局動向や金融政策の行方を見極めたいとして、今週は方向感の乏しい相場展開になるとみられる。フランスの下院総選挙では、極右政党の国民連合が政権を握る可能性が高いとみられ、財政拡張によるフランス国債利回りの上昇の程度が気になり。一方、米国の大統領選では、当面はトランプ大統領の復活を見据えた相場展開、物色の流れが想定されよう。

### 10年債利回りは上昇、円安加速で日銀の利上げへの思惑

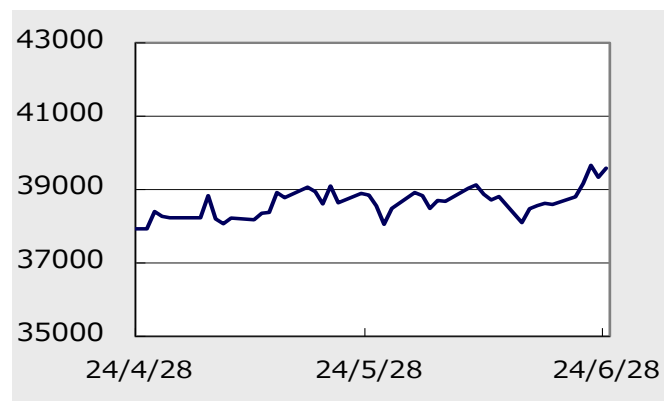
利回りは上昇。米連邦準備制度理事会（FRB）高官の利下げに慎重な発言で米長期金利が上昇した上、為替市場での円安加速で日本銀行が早期の追加利上げに踏み切ることへの思惑が高まった。ただ、日銀が定例の国債買い入れ額を前回オペから据え置いたことで、長期債金利はやや抑制される場面もあった。

### 10年債、今週は利回りは強含みか、7月利上げ観測強まる

利回りは強含みか。足元の円安加速を受け、市場では日本銀行が国債買い入れの具体的な減額計画を決める7月の金融政策決定会合で、同時に追加利上げが実施されるという予想が増えている。このため、金利先高感で利回りは強含みで推移するとみられる。ただ、欧州の政局不安が利回り上昇を抑制する見込み。

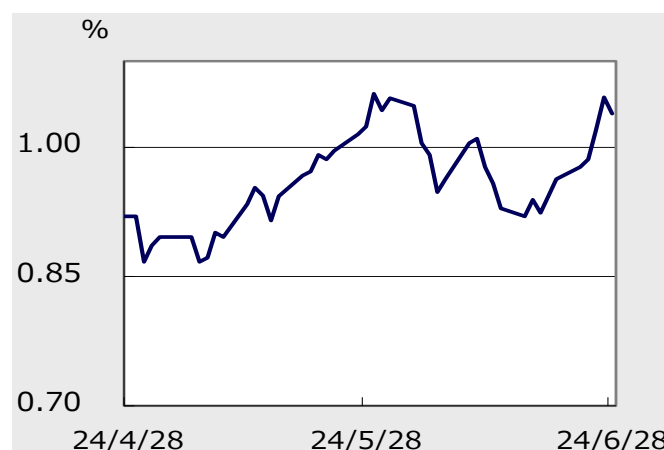
| 発表日    | 期間  | 指標名       |
|--------|-----|-----------|
| 7月 08日 | 05月 | 国際収支・貿易収支 |

### 日経平均株価



|          |                 |
|----------|-----------------|
| 日経平均週末終値 | 39583.08 円      |
| 想定レンジ    | 38800 ~ 39800 円 |

### 10年債利回り



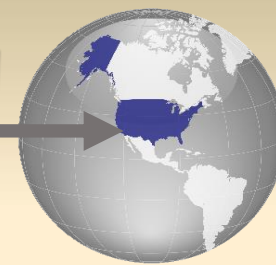
|           |               |
|-----------|---------------|
| 10年国債週末終値 | 1.05 %        |
| 想定レンジ     | 1.00 ~ 1.10 % |





## 米国概況

U.S.A



### 耐久財受注は市場予想を下振れへ

米商務省が6月27日に発表した5月の耐久財受注は前月比0.1%増だった。4月分は0.2%増で前回発表の0.6%増から下方改定された。非国防資本財（コア資本財）受注は5月が0.6%減となり、市場予想の0.1%増に反して減少となっている。4月分は0.3%増であった。

### 米国株はもみ合い、PCEデフレーターなどは支援材料

もみ合い。週前半はエヌビディアの株価伸び悩みなどが全体相場の上値追いムードを抑制した。注目された5月個人消費支出（PCE）デフレーター（コア）は、前月比0.1%上昇と2020年11月以来の低い伸びにとどまった。市場予想通りではあったものの、インフレ再加速への懸念が後退したことで、買い安心感にはつながったもよう。

### 米国株、今週はもみ合いを予想、休場や雇用統計控え方向感生じにくい

もみ合いを予想。7月4日は独立記念日で休場となり、5日には雇用統計を控えている。カレンダー要因からも方向感定まりにくいとみられる。とりわけ、先月の雇用統計上振れを受けて、利上げ回数見通しが下方修正されたとみられるため、警戒感がやや先行する公算。主要ハイテク株の循環物色継続などには期待も。

### 10年債利回りは上昇、安全逃避的な債券買いは縮小

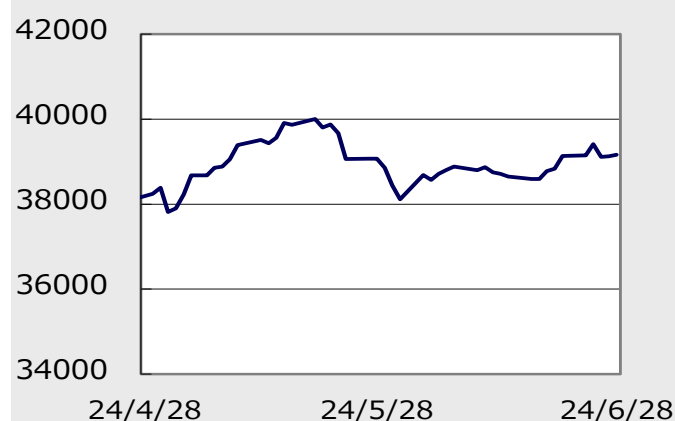
利回りは上昇。直近発表の経済指標の一部はインフレ緩和を示唆したが、フランスの政治不安、財政悪化を警戒した安全逃避的な債券買いは縮小したことが影響したようだ。米国のインフレ緩和のペースが一段と速まる可能性は低いことも債券利回りの上昇を促したようだ。

### 10年債、利回りは弱含みか、賃金上昇率は鈍化予想

利回りは弱含みか。7月5日に発表される6月雇用統計が有力な手掛かり材料となりそう。インフレ見通しに影響を及ぼす平均時間給の上昇率は5月実績をやや下回る可能性がある。6月実績が市場予想と一致、または下回った場合、年内利下げの確率は上昇し、長期債利回りは弱含みとなる可能性がある。

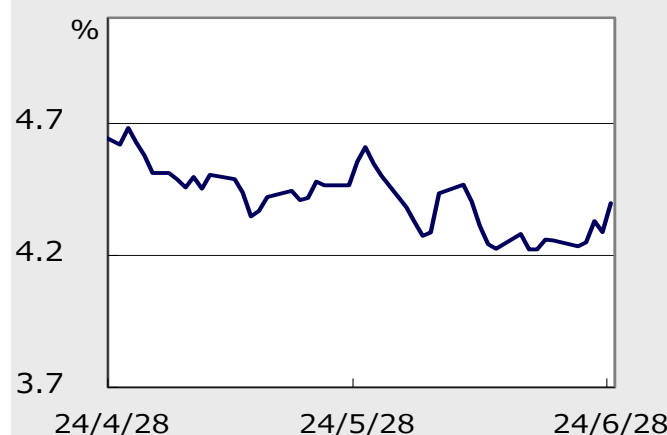
| 発表日    | 期間  | 指標名         |
|--------|-----|-------------|
| 7月 03日 | 06月 | ADP全米雇用報告   |
| 7月 03日 | 前週  | 新規失業保険申請件数  |
| 7月 03日 | 05月 | 貿易収支        |
| 7月 03日 | 06月 | ISM非製造業景況指数 |
| 7月 04日 |     | 休場(独立記念日)   |
| 7月 05日 | 06月 | 非農業部門雇用者数   |
| 7月 05日 | 06月 | 失業率         |
| 7月 05日 | 06月 | 平均時給        |
| 7月 09日 |     | パウエルFRB議長発言 |

### NYダウ平均



|          |               |    |
|----------|---------------|----|
| NYダウ週末終値 | 39118.86      | ドル |
| 想定レンジ    | 38900 ~ 39400 | ドル |

### 10年債利回り



|           |        |        |
|-----------|--------|--------|
| 10年国債週末終値 | 4.39   | %      |
| 想定レンジ     | 4.25 ~ | 4.48 % |



## 欧州概況

Europe



### Ifo景気期待指数は市場予想に反して低下

独Ifo経済研究所が6月24日に発表した6月の業況指数は88.6と予想外に低下した。5月は89.3であった。また、市場予想は89.7へと上昇を見込んでいた。期待指数も前月の90.3から89.0へと低下、市場予想は91.0への上昇であった。

### ユーロ円は強含み、リスク回避の円買いは縮小

強含み。フランスの財政悪化を懸念したリスク回避のユーロ売り・円買いは一巡し、日米金利差を意識した米ドル買い・円売りが活発となったことから、ユーロ・円は週初の170円台前半から6月28日には172円台まで買われた。円安進行でも日本の為替介入は実施されなかったことも影響したようだ。

### ユーロ円、伸び悩みか、フランスの政治リスクと日本の為替介入を意識

伸び悩みか。フランス議会選で右派勢力が躍進した場合、7月7日の決戦投票に向けユーロ売りが強まる可能性がある。欧州中央銀行（ECB）の追加利下げ観測もユーロ売りを支援か。一方、円安進行で日本政府による為替介入に対する警戒感が高まっており、リスク回避の円買いがユーロを下押しする可能性もある。



## ドイツ市場

### 10年債利回りは上昇、フランス国債利回り上昇に追随

利回りは上昇。週初はIfo経済研究所が発表した業況指数が予想外に低下したものの、国債利回りは上昇する動きとなる。その後、フランス国債利回りが上昇方向となる中、安全資産としてのドイツ国債買いは限られ、利回りは連れ高する状況に。週末も米国の個人消費支出（PCE）デフレーター低下に反応限定的。

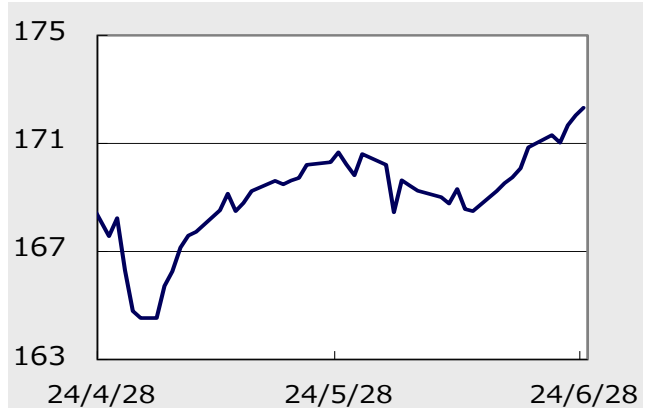
### 10年債、今週は利回りは上昇か、フランスの選挙結果など注視

利回りは上昇か。6月30日の第1回投票に続いて、7月7日にはフランス総選挙の決選投票を控えている。極右政権樹立に伴う影響への懸念は、欧州全般に再燃する可能性もあるとみられる。安全資産のドイツ国債買いも見込まれるが、欧州全般的に資金流出の流れが強まる可能性。

### 経済指標発表予定

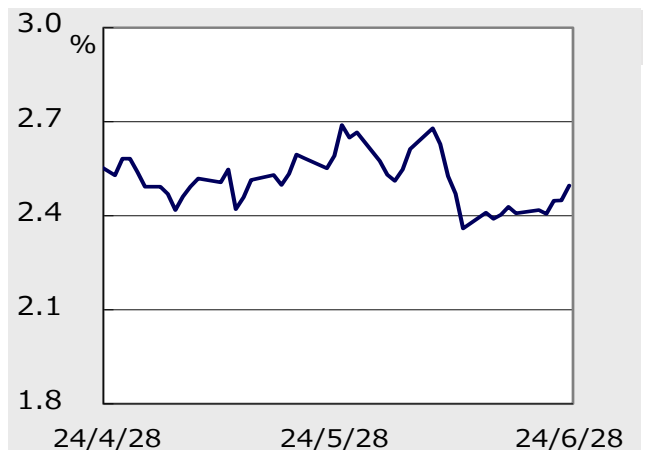
| 発表日    | 期間  | 指標名       |
|--------|-----|-----------|
| 7月 02日 | 05月 | 欧・失業率     |
| 7月 03日 | 05月 | 欧・生産者物価指数 |
| 7月 05日 | 05月 | 欧・小売売上高   |
| 7月 05日 | 05月 | 独・鉱工業生産指数 |

### ユーロ円



|          |                   |
|----------|-------------------|
| ユーロ円週末終値 | 172.35 円          |
| 想定レンジ    | 169.50 ~ 174.50 円 |

### ドイツ10年債利回り



|           |               |
|-----------|---------------|
| 10年国債週末終値 | 2.50 %        |
| 想定レンジ     | 2.40 ~ 2.70 % |



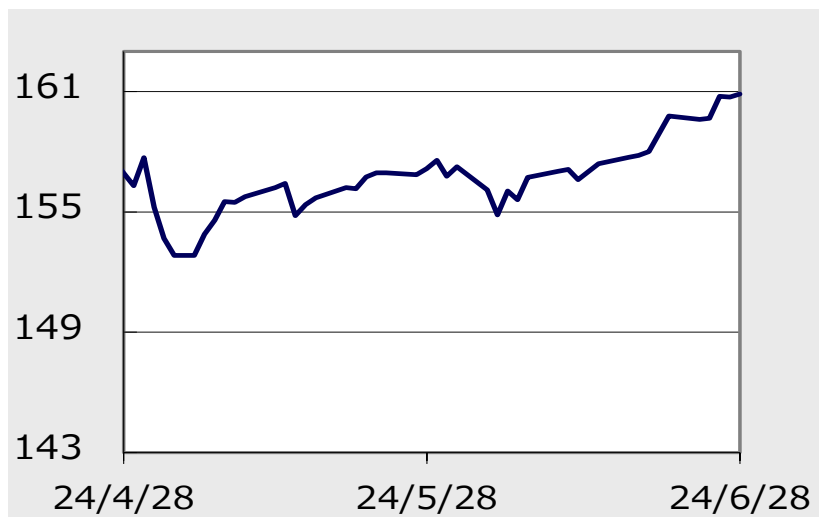
# ドル円 為替展望

ドル／円 今週の想定レンジ

159.00 ~ 162.50 円

## 今週のドル・円は伸び悩みか

今週のドル・円は伸び悩みか。米国財務省が公表した為替報告で為替操作国の監視リストに日本が加えられたが、1ドル=161円を超える水準で為替介入が実施される可能性は残されている。6月30日投開票のフランス議会選で右派勢力が躍進すれば、7月7日の決戦投票に向けリスク回避のユーロ売り・円買いが強まる可能性があることも短期的なドル・円の相場動向に影響を与えそうだ。7月5日発表の6月米雇用統計で賃金上昇圧力は多少弱まると予想されていること、円安進行を受けて日本銀行は次回7月開催の金融政策決定会合で追加利上げを検討する可能性があることもドル高を抑制する一因となり得る。



ドル円週末終値 160.89 円

### 【米・6月雇用統計】(7月5日発表予定)

7月5日発表の米6月雇用統計では失業率は4.0%、非農業部門雇用者数は前月比+18.5万人の市場観測。賃金上昇圧力が低下すればドル売り要因に。

## 商品マーケット (金・原油)



NY  
金先物

週末終値  
2,335.30ドル

### もみ合い、ドル高・ユーロ安一服で

もみ合い。フランス政局不安をきっかけとしたドル高・ユーロ安の動きには一巡感、金相場は下げ渋る動きが優勢となった。米長期金利は強含みとなったものの、個人消費支出(PCE)デフレーターが市場予想通りに低下したことなどから、金売りが拡大する状況には至らず。



NY  
原油先物

週末終値  
81.52ドル

### 強含み、地政学リスクが高まる

強含み。親イラン武装組織フーシ派が最近イエメン沖で船舶への攻撃を強めていることや、ロシアに併合されたクリミアへのミサイル攻撃を巡ってロシアが米国を非難するなど地政学リスクが高まった。また、米国のリグ稼働数が5週連続減少していることが買い材料となった。一方、米金利の上昇が上値を抑えた。



## 中国概況

China



### 今年の成長目標5%前後、達成可能＝李強首相

李強首相は6月25日に開幕した世界経済フォーラムの夏季ダボス会議で、5%前後という今年の成長目標が達成可能だと自信を示した。目標を達成するため、政府が景気対策を強化すると期待されている。なお、5月の工業企業利益の増加率は前月から大幅に鈍化した。景気不安は一段と高まっている。

**人民元はやや強含み、米政策金利の利下げ観測の高まりと円全面安**

やや強含み。中国景気の先行き不安や欧米との貿易摩擦悪化懸念はあるものの、中国政府の景気対策への期待や米5月個人消費支出（PCE）価格指数の鈍化を受けた米政策金利の利下げ観測の高まりから、中国元は対円で上昇し一時年初来高値をつけた。円安・米ドル高が進行したことも中国元の下支えになった。

**人民元今週は軟調か、6月購買担当者景気指数（PMI）は伸び悩む見込み**

軟調か。国家統計局及び財新の6月購買担当者景気指数（PMI）が発表される。伸びが鈍化していた場合、中国元は対円で軟調に推移しそうだ。また、日本政府・日本銀行による円買い米ドル売りの為替介入への警戒感が高まっていることも、中国元の上値を抑えそうだ。一方、7月開催の「三中全会」への期待は下支えに。

**上海総合指数は続落、上海総合指数は約4カ月ぶりの安値を更新**

続落。上海総合指数は約4カ月ぶりの安値水準を更新して引けた。景気の先行きが不安視されているなか、売りは継続。5月の工業企業利益は前年同月比で0.7%増にとどまり、4月の4.0%増から大幅に鈍化した。また、ハイテク分野などを巡る米中対立の激化や、元安の進行も中国株の圧迫材料。一方、景気対策に対する期待感が指数をサポートした。



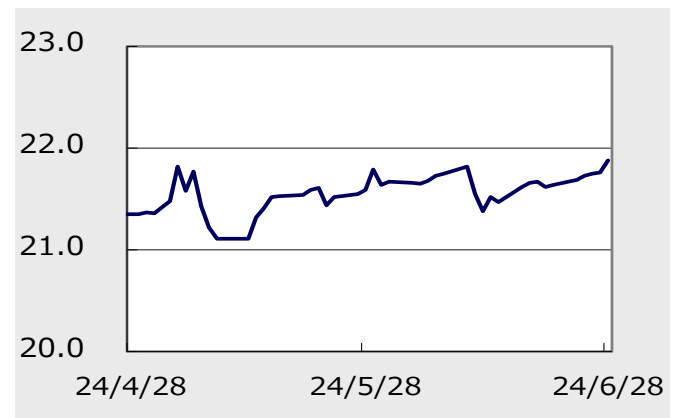
## 香港市場

**ハンセン市場は強含みか、米利下げ期待が再び高まる**

強含みか。米利下げ期待が再び高まっていることが外資の流出懸念を後退させよう。また、中国の景気対策への期待も支援材料へ。ほかに、ハンセン指数が前週末約2カ月ぶりの安値まで落ち込んでおり、値ごろ感から買い戻しが優勢になる可能性がある。一方、中国の景気不安が払しょくされていないことが引き続き警戒されよう。また、米中対立の激化なども嫌気される見通しだ。

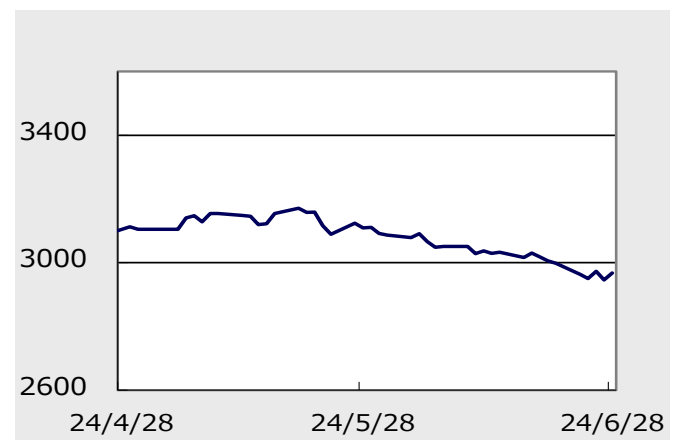
| 発表日    | 期間  | 指標名        |
|--------|-----|------------|
| 7月 03日 | 06月 | 財新サービス業PMI |
| 7月 03日 | 06月 | 財新総合PMI    |

人民元円



|          |         |         |
|----------|---------|---------|
| 人民元円週末終値 | 22.12   | 円       |
| 想定レンジ    | 21.70 ~ | 22.00 円 |

上海総合指数

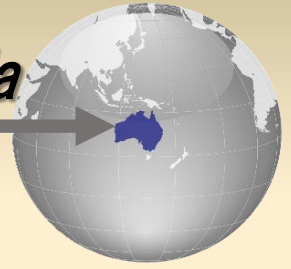


|            |         |         |
|------------|---------|---------|
| 上海総合指数先週終値 | 2967.40 | Pt      |
| 想定レンジ      | 2920 ~  | 3010 Pt |



## 豪州概況

Australia



### CPIは3カ月連続で市場予想を上振れ

5月の消費者物価指数（CPI）上昇率は前年同月比4%となり、3カ月連続で市場予想を上回った。5月の市場予想は3.8%の上昇であった。豪準備銀行（中央銀行）が8月の政策決定会合で利上げを再開するとの観測も強まる格好に。変動の激しい項目を除くトリム平均コア指数の上昇率も4.4%と前月から加速。

#### 豪ドル円は上昇、直近のインフレ指標は市場予想を上回る

上昇。神田財務官が「為替介入は24時間準備している」と述べ、一時全体的に円買いになる場面がみられた。ただ、その後は、豪州の5月消費者物価指数（CPI）が市場予想を上回ったこと、豪準備銀行（中央銀行）高官のタカ派的な発言が伝わったことなどから、豪ドル買いが優勢となった。

#### 豪ドル、今週はもみ合いか、年内利上げの可能性残る

もみ合いか。5月消費者物価指数（CPI）が市場予想を上回ったことから、豪準備銀行（中央銀行）の年内利上げ観測が再浮上してきている。豪準備銀行のケント総裁補は「インフレ抑制に必要な追加引き締めも排除しない」とも言明。ただ、足元で豪ドルの上昇ピッチは強まっており、その反動も想定されるところ。

#### 10年債利回りは上昇、CPIが予想を上回り利上げ観測

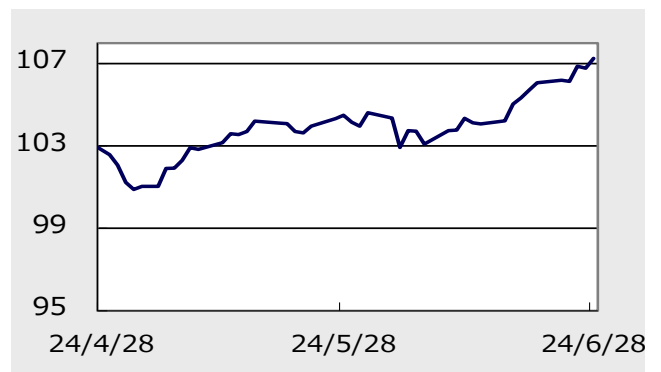
利回りは上昇。5月消費者物価指数（CPI）上昇率は予想を上回り前年同月比4%となり、3カ月連続で上昇したことを受けて、豪準備銀行（中央銀行）が8月の政策決定会合で利上げを再開するとの観測も強まった。ケント中銀総裁補は「インフレ抑制に必要な追加引き締めも排除しない」と述べ、利回り上昇の要因となった。

#### 10年債、今週は利回りは強含みか、利上げ観測が強まる可能性

利回りは強含みか。インフレ指標の上振れを受けて豪準備銀行（中央銀行）の年内利上げ観測が浮上しており、利回りは強含みで推移する見込み。7月2日中銀の6月理事会議事要旨の発表があり、内容によってはさらに8月利上げの思惑が強まる可能性。ただ、フランスの選挙結果によってはリスク回避で国債が買われる場面も。

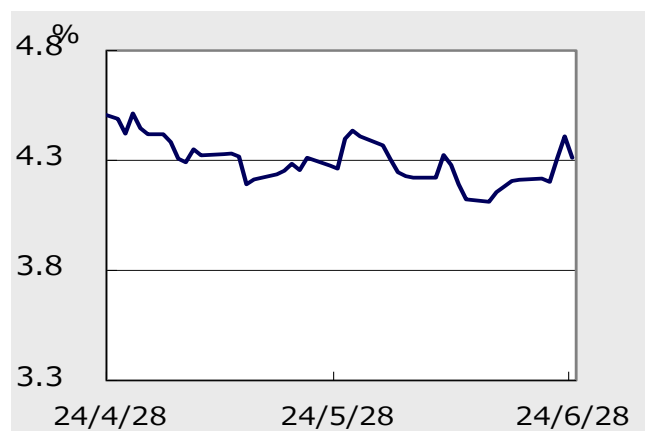
| 発表日    | 期間  | 指標名  |
|--------|-----|------|
| 7月 04日 | 05月 | 貿易収支 |

#### 豪ドル円



|          |                   |
|----------|-------------------|
| 豪ドル円週末終値 | 107.32 円          |
| 想定レンジ    | 105.50 ~ 107.00 円 |

#### 豪州 10年債利回り



|           |                 |
|-----------|-----------------|
| 10年国債週末終値 | 4.31 %          |
| 想定レンジ     | 4.200 ~ 4.500 % |



## ブラジル概況

Brazil



### 歳出削減への期待で財政悪化の懸念和らぐ

ブラジルのルラ大統領は6月27日にラジオ番組に出演し、「歳出削減の余地は常に残されている」との見方を伝えた。大統領の発言を受けて財政悪化を警戒したレアル売りは縮小したが、効果的な歳出削減は困難との見方は変わっていない。そのため、ブラジルの債務問題については予断を許さない状況が続くとみられる。

#### レアル円は反落、財政状況の悪化懸念で

反落。財政状況の悪化懸念が高まっていることがレアルの売り圧力を強めた。レアルの対米ドルレートは6月26日、一時約2年半ぶりのレアル安を記録。また、中国景気の先行き不安が払しょくできないことも圧迫材料となった。一方、円安進行が対円レートをサポートした。また、成長予想の上方修正も好感された。

#### レアル円、今週は上値の重い展開か、財政状況への懸念が引き続き圧迫材料へ

上値の重い展開か。財政状況への懸念が払しょくできないことが引き続き圧迫材料となろう。また、5月の鉱工業生産や6月のS&Pグローバル製造業購買担当者景気指数（PMI）などがこの週に発表されるため、慎重ムードも強まる見通しだ。一方、米利下げ期待の高まりがレアルの支援材料となろう。

#### ボエスパ指数続伸、成長予想の上方修正などを好感

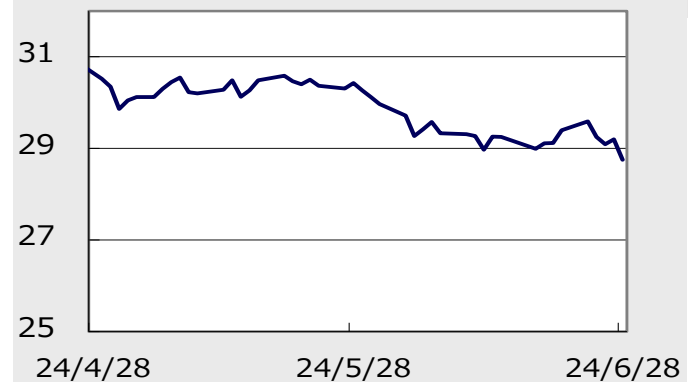
続伸。成長予想の上方修正が好感された。ブラジル中央銀行が発表した四半期のインフレ報告では、2024年度の国内総生産（GDP）成長予想が前回の1.9%から2.3%に上方修正された。また、原油価格の上昇も資源セクターの物色手掛かり。一方、インフレ率の加速懸念が指数の足かせとなった。また、ハイテク分野などを巡る米中対立の激化も嫌気された。

#### ボエスパ指数、今週は強含みか、米利下げ期待の高まりなどで

強含みか。米利下げ期待の高まりが外資の流出懸念を後退させよう。また、2024年度の成長予想の上方修正なども引き続き好感される見通しだ。一方、中国景気の先行き不安が払しょくできないことが引き続き警戒されよう。また、5月の鉱工業生産や6月のS&Pグローバル製造業購買担当者景気指数（PMI）などがこの週に発表されるため、慎重ムードも強まる見通しだ。

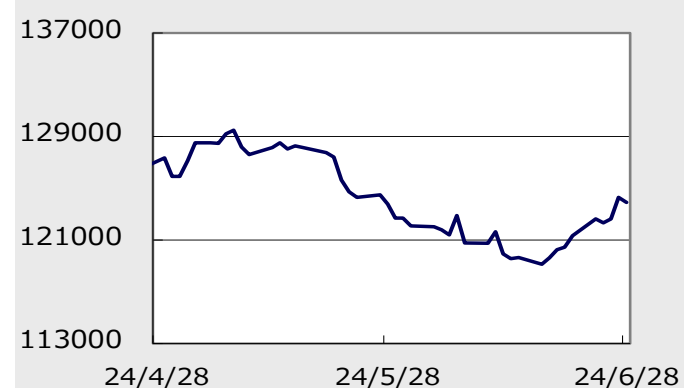
| 発表日    | 期間  | 指標名              |
|--------|-----|------------------|
| 7月 03日 | 05月 | 鉱工業生産            |
| 7月 03日 | 06月 | S&Pグローバル総合PMI    |
| 7月 03日 | 06月 | S&Pグローバルサービス業PMI |
| 7月 04日 | 06月 | 貿易収支             |

#### レアル円



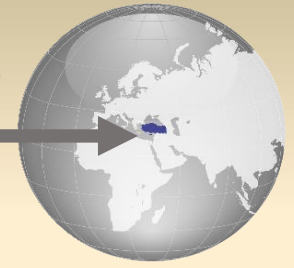
|          |                 |
|----------|-----------------|
| レアル円週末終値 | 28.86 円         |
| 想定レンジ    | 28.26 ~ 29.46 円 |

#### ボエスパ指数



|            |                    |
|------------|--------------------|
| ボエスパ指数先週終値 | 123906.55 Pt       |
| 想定レンジ      | 121900 ~ 125900 Pt |



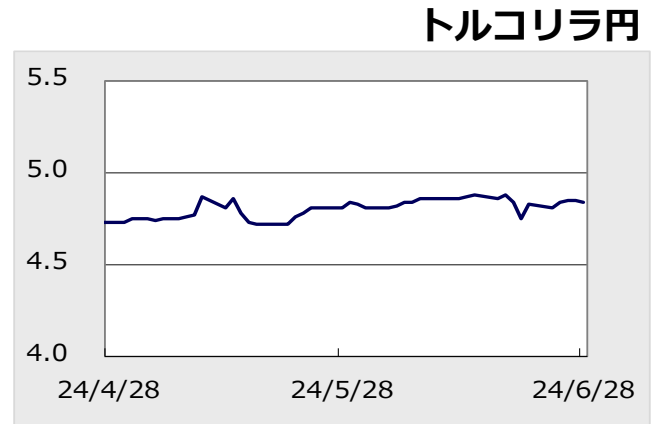


## 堅調推移、金利据え置きでインフレ抑制の思惑強まる

堅調推移。トルコ中央銀行は6月27日に政策金利の据え置きを発表し、インフレ抑制の方針を堅持したことが好感された。金利据え置きは長期化し、今年後半にかけてトルコと欧米諸国の金利差は拡大する見込み。インフレ抑制による個人消費や企業設備投資の拡大が期待されていることもリラ買い材料となった。

### トルコリラ、今週は強含みか、トルコは資金洗浄の監視強化対象から除外

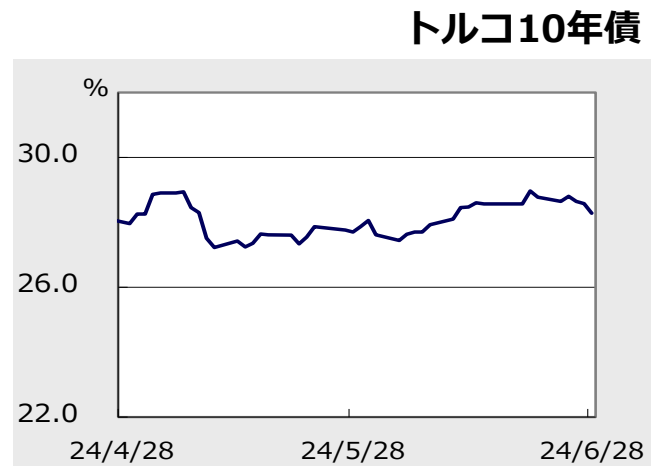
強含みか。報道によると、資金洗浄対策を担う多国間の枠組み「金融活動作業部会（FATF）」は6月28日、資金洗浄とテロリストの資金調達に対するトルコの対応策を評価して同国を監視強化対象から外した。この措置を受けて外国資本の流入増加が期待されており、リラ相場に対する支援材料となりそうだ。



|            |                 |
|------------|-----------------|
| トルコリラ円週末終値 | 4.91 円          |
| 想定レンジ      | 4.895 ~ 4.945 円 |

### 10年債利回りは反落、インフレ緩和の思惑強まる

利回りは反落。トルコ中央銀行は6月27日、政策金利を50.00%に据え置くことを決定したが、インフレ抑制の方針を再確認したことが意識されたようだ。政策金利を当面据え置くことによってインフレ緩和の可能性は一段と高まる見込み。トルコリラが安定的に推移していることも国債利回りの低下につながった。



|             |                 |
|-------------|-----------------|
| トルコ10年債先週終値 | 28.28 %         |
| 想定レンジ       | 28.00 ~ 28.50 % |

### 10年債利回りは上げ渋りか、米長期金利の動向が手掛かり材料に

利回りは上げ渋りか。短期的には米長期金利の動向を意識した取引が主体となりそうだ。直近において米長期金利は上昇したが、同国のインフレ緩和の思惑は消えていない。現時点で年内利下げの可能性は高いとみられており、この状況が変わらない場合、トルコ国債の利回りは上げ渋る可能性が高いとみられる。

### プーチン氏、7月に外交攻勢か=インド首相訪ロ、包囲網にくさび

ロシアのプーチン大統領はウクライナ侵攻を有利に進めるため、軍事面だけでなく外交面でも攻勢に出る構えだ。中立的な立場を維持する伝統的友好国インドのモディ首相が、7月8日にモスクワを訪問すると報じられており、プーチン氏は首脳会談を通じ、西側諸国の対ロ包囲網にくさびを打ち込みたいと考えた。モディ氏の訪ロは5年ぶり、侵攻開始後では初。同氏はかつてプーチン氏に「今は戦争の時ではない」と苦言を呈したが、10月の新興国グループ「BRICS」首脳会議に合わせて再訪する可能性もある。ウクライナのゼレンスキー大統領が提唱し、スイスで6月中旬に開かれた「平和サミット」では、インドを含む新興国の多くが共同声明への署名を拒否した。プーチン氏としては、ロシアへの風当たりが強まることを阻止したと言える。7月3、4両日にはカザフスタンで上海協力機構（SCO）首脳会議が開催され、プーチン氏は5月の中国訪問時に続いて習近平国家主席と会談する。両首脳は、対米けん制で結束を示すとともに「ロシアとウクライナが認める国際平和会議」（習氏）こそが必要と訴える見通し。プーチン氏はカザフで、北大西洋条約機構（NATO）加盟国ながら侵攻で仲介役を務めたトルコのエルドアン大統領とも会う予定だ。（後略）（時事）（C）時事通信社



## ロシア概況

Russia



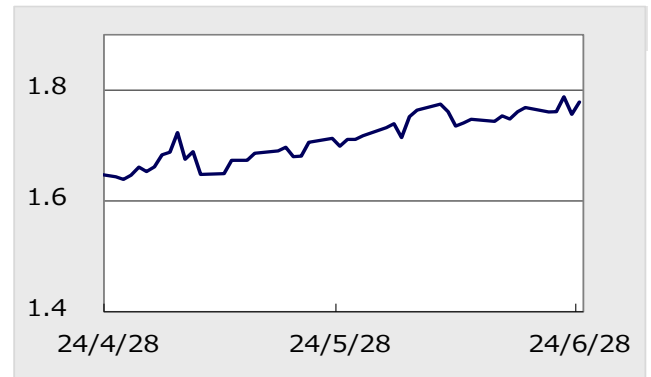
### 続伸、原油高や対米ドルの上昇で

続伸。原油価格の上昇が資源輸出の通貨ルーブルの支援材料となった。またルーブルの対米ドルの上昇も対円レートを押し上げた。ほかに経済指標の改善が支援材料。5月の鉱工業生産の上昇率（前年同月比）は5.3%となり、前月の3.9%と予想の2.3%を上回った。一方、欧米との対立などが懸念材料となった。

#### ルーブル円、今週は慎重ムードか、小売売上高などに注目

この週は5月の小売売上高や6月のS&Pグローバル製造業購買担当者景気指数（PMI）などが発表されるため、慎重ムードは強まろう。また、円相場などにも注目する必要がある。円相場が円高に傾いた場合、対円レートは下落も。一方、米利下げ期待の高まりなどが支援材料となろう。

#### ルーブル円



|              |                 |
|--------------|-----------------|
| ロシアルーブル円週末終値 | 1.88 円          |
| 想定レンジ        | 1.806 ~ 1.946 円 |

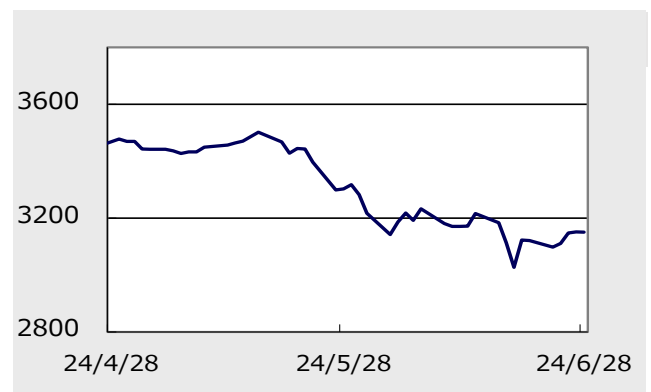
#### MOEXロシア指数、強含み、原油高や経済指標の改善で

強含み。原油価格の上昇がウエートの高い資源銘柄の物色手掛かりとなった。また、経済指標の改善も好感された。5月の鉱工業生産の上昇率（前年同月比）は5.3%となり、前月の3.9%と予想の2.3%を上回った。一方、欧米との対立が緩和されていないことが引き続き圧迫材料。また、中国景気の先行き不安なども足かせとなった。

#### MOEXロシア指数、底堅いか、米利下げ期待の再燃で

底堅いか。米利下げ期待の再燃が外資の流出懸念を後退させよう。また、原油価格が続伸した場合、資源の一角に買いは継続も。ほかに、海外市場が上昇した場合、ロシア株も連れ高の可能性はある。一方、欧米との対立や中国景気の先行き不安が払しょくできないことなどが引き続き圧迫材料となろう。

#### MOEXロシア指数



|               |                |
|---------------|----------------|
| MOEXロシア指数先週終値 | 3154.36 Pt     |
| 想定レンジ         | 3120 ~ 3200 Pt |

#### 武器取引は「制裁違反」=条約にも懸念、口朝は反発―国連安保理

【ニューヨーク時事】国連安全保障理事会は28日、北朝鮮がロシアに武器を供与しているとされる問題で、緊急の公開会合を開いた。各理事国から「制裁違反だ」と非難が相次いだ。ロシアは「完全なうそだ」と取引を否定。利害関係国として参加した北朝鮮も「米国こそウクライナへの軍事援助を強化している」と反発した。日米英仏韓が会合を要請した。安保理が北朝鮮問題を巡り、ロシアへの武器移転を議題に協議するのは初めて。日米韓など約50カ国と欧州連合(EU)は会合に先立ち、口朝間の武器移転を「可能な限り強い言葉で非難する」との共同声明を出した。会合には、ロシアの侵攻を受けるウクライナで現地調査に当たる独立系シンクタンクの代表が出席。1月2日にウクライナ第2の都市ハリコフに着弾したミサイルが、2023年に北朝鮮で製造されたものだを確認したと報告した。北朝鮮との武器取引は安保理制裁決議で禁じられている。会合では、口朝が今年19日に締結した有事の際の相互援助をうたう「包括的戦略パートナーシップ条約」についても日米韓などが懸念を表明した。山崎和之国連大使は「両国の軍事協力の深化に道を開くものだ」と述べた。これに対し、ロシアのネベンジャ大使は「条約は誰の脅威にもならない」と反論。北朝鮮の金星大使も「ロシアとの関係は防衛的なもので(口朝に)軍事侵攻する意図がなければ、両国関係の進展を心配する理由はない」と主張した。(C)時事通信社



## インド概況

India



### 24年度の成長目標、上方修正の可能性も

国内メディアはこのほど、財務省が2024年度の成長目標をこれまでの10.5%から10.5-11.0%に引き上げる計画だと報じた。報道通りなら財政支出が一段と拡大される見通しだ。また、モルガン・スタンレー証券も最新レポートで、24年度の個人消費の増加率が前年度の4%から6.1%に上昇すると予測した。

#### インドルピー円は強含み、個人消費拡大の思惑強まる

強含み。米大手金融は2024年におけるインドの個人消費拡大を予想していること、インフレ抑制によって持続的な経済成長への期待が改めて高まっていることから、リスク選好的なルピー買いが観測された。週後半の米ドル・円相場が円安方向に振れたことも影響したようだ。

#### インドルピー円、今週は強含みか、株高持続でルピー買い継続の可能性

強含みか。国内主要株価指数は強い動きを保っており、株高を好感したルピー買いはしばらく続く可能性がある。インフレ緩和を受けてインド準備銀行（中央銀行）による早期利下げ観測が浮上しているが、金融緩和は個人消費の拡大につながるため、リスク回避的なルピー売りが拡大する可能性は低いとみられる。

#### SENSEX指数続伸、SENSEX指数は過去最高値を更新

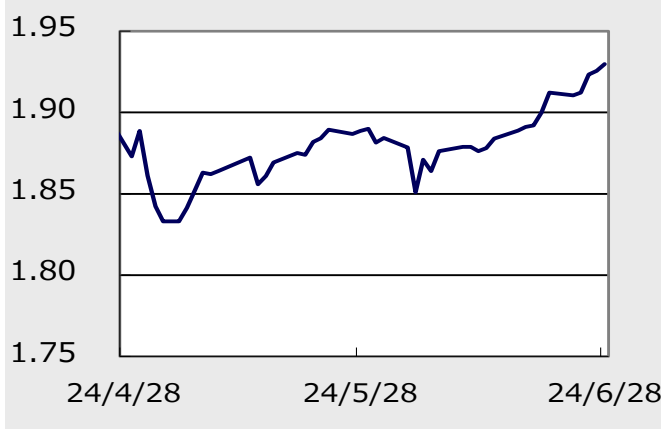
続伸。SENSEX指数はこの週、過去最高値を更新した。政府が2024年度の成長目標を上方修正する可能性があるとの観測が好感された。また、個人消費の回復期待も支援材料。24年度の個人消費の増加率は前年度4%から6.1%に拡大すると予測されている。ほかに、経常収支の改善が財政支出の拡大期待を強めた。一方、インフレ率の加速懸念などが指数の足かせとなった。

#### SENSEX指数、今週は上値の重い展開か、高値警戒感などで

上値の重い展開か。SENSEX指数が先週、過去最高値を再び更新しており、過熱感から利益確定売り圧力が強まる可能性がある。また、インフレ率の加速懸念なども引き続き警戒されよう。一方、成長目標が上方修正されるとの期待などが引き続き支援材料へ。また、米利下げ期待が再び高まっていることも外資の流出懸念を後退させよう。

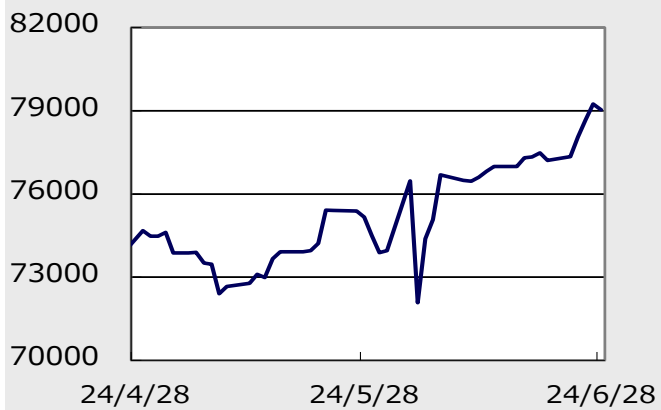
| 発表日    | 期間  | 指標名          |
|--------|-----|--------------|
| 7月 03日 | 06月 | HSBCサービス業PMI |
| 7月 03日 | 06月 | HSBC総合PMI    |
| 7月 05日 |     | 外貨準備高        |

#### インドルピー円



|             |                 |
|-------------|-----------------|
| インドルピー円週末終値 | 1.929 円         |
| 想定レンジ       | 1.920 ~ 1.965 円 |

#### SENSEX指数



|              |                  |
|--------------|------------------|
| SENSEX指数先週終値 | 79032.73 Pt      |
| 想定レンジ        | 77130 ~ 80930 Pt |

# 日本株 注目スクリーニング

## 年初から株価の水準訂正が進み、かつ目先の調整一巡感も意識される銘柄

■ 全般的に方向感の定めにくい状況が続く

国内外の政局動向、並びに、日米金融政策の行方に不透明感が強い中、引き続き全体相場は方向感が定めにくい状況が継続しそうだ。一方方向の上昇相場も見込みにくい中、株価調整銘柄の押し目買いの動きなどに注目したい。年初から大幅な株価の水準訂正を果たした銘柄の中で、高値からの調整が進んでいる銘柄をスクリーニングしている。

スクリーニング要件としては、①年初来の株価上昇率が70%以上、②過去120日高値と現在株価の乖離率が15%以上、③時価総額が300億円以上。

### ■ 調整一巡感意識される年初からの上昇銘柄

| コード  | 銘柄          | 市場     | 6/28株価<br>(円) | 時価総額<br>(億円) | 株価騰落率<br>(%) | 株価乖離率<br>(%) | 予想<br>1株利益<br>(円) |
|------|-------------|--------|---------------|--------------|--------------|--------------|-------------------|
| 1518 | 三井松島HD      | プライム   | 5,070.0       | 662.3        | 92.41        | 22.49        | 234.88            |
| 1969 | 高砂熱学工業      | プライム   | 5,720.0       | 4,017.7      | 77364.00     | 17.83        | 322.62            |
| 3778 | さくらインターネット  | プライム   | 4,345.0       | 1,634.6      | 96.70        | 152.70       | 35.01             |
| 3905 | データセクション    | グロース   | 1,861.0       | 319.9        | 440.99       | 68.73        | 0.99              |
| 4107 | 伊勢化学工業      | スタンダード | 29,660.0      | 1,523.0      | 245.29       | 36.55        | 902.54            |
| 4894 | クオリプス       | グロース   | 7,810.0       | 590.3        | 236.49       | 15.49        | —                 |
| 5595 | QPS研究所      | グロース   | 2,572.0       | 900.2        | 102.84       | 93.43        | —                 |
| 5631 | 日本製鋼所       | プライム   | 4,283.0       | 3,186.0      | 74.82        | 16.04        | 210.61            |
| 6016 | ジャパンエンジンコーポ | スタンダード | 15,690.0      | 439.3        | 118.52       | 19.18        | 357.81            |
| 6638 | ミマキエンジニアリング | プライム   | 1,927.0       | 617.4        | 108.32       | 15.72        | 138.96            |
| 6871 | 日本マイクロニクス   | プライム   | 6,690.0       | 2,677.7      | 82.29        | 33.63        | —                 |
| 6941 | 山一電機        | プライム   | 3,330.0       | 776.9        | 72.00        | 16.07        | 244.58            |
| 7003 | 三井E&S       | プライム   | 1,456.0       | 1,501.1      | 106.23       | 99.04        | 360.22            |
| 9509 | 北海道電力       | プライム   | 1,194.0       | 2,570.6      | 91.16        | 46.57        | 202.57            |

(注) 株価騰落率は昨年末比

(注) 株価乖離率は過去120日高値と現在株価乖離率

出所: フィスコアプリより作成



# 日本株 注目カテゴリー

## テーマ別分析：ファッション・アパレル関連は選別物色に

### ■オケージン需要通過後の動きに注目

消費関連株を中心とする2月期決算企業の第1四半期や8月期決算企業の第3四半期決算発表が来週にかけて本格化し、7月12日にピークを迎える。ユニクロやGUを展開するファーストリテイリング<9983>は11日に第3四半期決算発表を予定しており、日経平均寄与度も高いことから注目されよう。また、ファーストリテイの決算を機に、ファッション・アパレル関連へ関心が向いてくる可能性がある。

コロナ禍後となる前期のファッション・アパレル関連企業の業績は、入学・卒業式、結婚式等で使用するオケージン需要の回復などで総じて好調な決算だった。今期は企業努力によるまだら模様となることが予想され、ファッション・アパレル関連銘柄は選別物色が展開されることが見込まれよう。決算発表の内容に注目したい。

### ■主な「ファッション・アパレル」関連銘柄

| コード  | 銘柄            | 市場     | 6/28<br>終値<br>(円) | 概要                                       |
|------|---------------|--------|-------------------|------------------------------------------|
| 2685 | アダストリア        | プライム   | 3635              | 「グローバルワーク」など複数のブランドを展開。                  |
| 2726 | パルグループHD      | プライム   | 1813              | 「3COINS」など複数のブランドを展開。今期は過去最高益更新計画。       |
| 2792 | ハニーズHD        | プライム   | 1582              | 若者から大人までを対象とする女性向けアパレルメーカー。              |
| 3205 | ダイドーリミテッド     | スタンダード | 807               | 紳士服ブランド「ニューヨーカー」などを展開。今期は黒字転換予想。         |
| 3415 | TOKYO BASE    | プライム   | 299               | 「UNITED TOKYO」など日本発のブランド、セレクトショップを展開。    |
| 3548 | バロックジャパンリミテッド | プライム   | 803               | 「MOUSSY」など若者向けブランドを複数展開。                 |
| 3558 | ジェイドグループ      | グロース   | 1636              | 靴・衣料品を中心としたEC通販を手掛ける。2023年6月にロコンドから社名変更。 |
| 3608 | TSIHD         | プライム   | 966               | 東京スタイルとサンエー・インターナショナルの経営統合により設立。既存店堅調。   |
| 3611 | マツオカコーポレーション  | スタンダード | 1785              | アパレル業界でのOEM最大手。                          |
| 3612 | ワールド          | プライム   | 2108              | 幅広い世代向けに複数のブランドを展開するアパレル大手。              |
| 7110 | クラシコム         | グロース   | 1418              | 2023年8月にファッションD2Cブランド「foufou」を子会社化。      |
| 7683 | ダブルエー         | グロース   | 2345              | 婦人向けシューズを展開。スポーツブランドも。                   |
| 8008 | ヨンドシーHD       | プライム   | 1950              | 宝飾品中心だが総合衣料専門店「パレット」も展開。                 |
| 8011 | 三陽商会          | プライム   | 2401              | 「ポール・スチュアート」など百貨店向けにブランドを展開。             |
| 8016 | オンワードHD       | プライム   | 622               | 「23区」などを展開する総合アパレル最大手。今期は2桁増益・増配見通し。     |
| 8018 | 三共生興          | スタンダード | 742               | 英国ブランド「DAKS」など高級ブランドを展開。                 |
| 8029 | ルックHD         | スタンダード | 2774              | 「Marimekko」など輸入ブランド展開。                   |
| 8118 | キング           | スタンダード | 761               | 「PINORE」などミセス向けブランドが主力のレディースアパレル。        |
| 9980 | MRKHD         | スタンダード | 113               | マルコブランドで補正下着を中心に展開。ベビー関連も手掛ける。           |
| 9983 | ファーストリテイリング   | プライム   | 40560             | 5月国内ユニクロ既存店売上高は前年同月比8.4%増。7月2日に6月度分発表。   |

出所：フィスコ作成

# 日本株 注目銘柄1

## ブラザー工業〈6448〉プライム

### 今期営業利益は76.7%増予想、株主還元も積極化

#### ■プリンターや工作機械など手掛ける

24年3月期はプリンター・複合機などのプリンティング・アンド・ソリューションズ（P&S）事業が売上収益全体の63%を占め、工作機械や工業用ミシンのマシナリー事業が9%、ペットボトルや缶などに印字するコーディング・マーキング機器のドミノ事業が13%、家庭用ミシンなどパーソナル・アンド・ホーム事業が6%などとなっている。地域別では米州が34%、欧州28%、アジア他24%、日本14%。24年3月期業績について、売上収益は8229.30億円（前期比0.9%増）、営業利益は497.92億円（同10.1%減）で着地。ドミノ事業でのれんの一部の減損損失を計上したことなどから営業減益となった。

#### ■追加的な株主還元も検討へ

25年3月期は売上収益8800億円（前期比6.9%増）、営業利益880億円（同76.7%増）を見込む。P&S事業の収益性維持に加え、産業用領域では設備投資需要の回復を捉えることでマシナリー事業を中心に成長を目指す。年間配当は前期比16円増配の100円を計画。業績の状況等に応じて追加的な株主還元を検討し、自己株式の取得は機動的な実施を基本方針としている。

#### ★リスク要因

金利上昇による産業界の設備投資意欲の減退など。

|        |        |
|--------|--------|
| 売買単位   | 100 株  |
| 6/28終値 | 2831 円 |
| 業種     | 電気機器   |

#### ■テクニカル分析



6448：日足

4月以降は2700円台が下値支持帯に。

(百万円)

| 会計期       | 売上高     | 前期比   | 営業利益   | 経常利益   | 前期比    | 当期利益   | 1株益(円) |
|-----------|---------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 2021/3連I  | 631,812 | -0.9% | 42,731 | 42,944 | -35.9% | 24,520 | 94.36  |
| 2022/3連I  | 710,938 | 12.5% | 85,501 | 86,429 | 101.3% | 61,030 | 234.89 |
| 2023/3連I  | 815,269 | 14.7% | 55,378 | 56,953 | -34.1% | 39,082 | 152.67 |
| 2024/3連I  | 822,930 | 0.9%  | 49,792 | 52,523 | -7.8%  | 31,645 | 123.81 |
| 2025/3連I予 | 880,000 | 6.9%  | 88,000 | 88,000 | 67.5%  | 63,000 | 246.48 |

# 日本株 注目銘柄2

## メイコー〈6787〉プライム

### プリント基板とEMS事業を展開、車載需要の回復が追い風

#### ■車載向けプリント基板が主力

プリント基板の設計・製造と、商品企画から設計・部品調達・実装・組立・検査・物流までを一括で請け負うEMS事業（電子機器の受託製造）を行う。プリント基板は、スマートフォン向けの高密度・高機能なプリント基板や、高周波対応、自動車のエンジンルームや太陽光発電装置など苛酷な環境に耐えうる高放熱・大電流基板など、多様なニーズに対応する。売上構成は、24年3月期で車載が53%、スマートフォン・タブレットが15%、AI家電・アミューズメント・産機他が10%、EMS・電子機器開発製造17%などとなっている。

#### ■営業利益は前期比21.8%増・今期37.2%増予想

24年3月期は、売上高1794.58億円（前期比7.3%増）、営業利益116.60億円（同21.8%増）で着地。車載需要の回復が追い風となったほか、ハイエンドモデルのスマートフォン向け基板の拡販に取り組んだことが奏功。稼働率の上昇、コスト削減効果、為替の影響等もあり利益が伸びた。25年3月期は売上高1950億円（前期比8.7%増）、営業利益160億円（同37.2%増）を見込む。車載向け基板が引き続き収益を牽引する見込み。基板生産の石巻第2工場、ベトナム第3工場の早期収益化に取り組む計画。

#### ★リスク要因

円相場の急激な変動など。

|        |        |
|--------|--------|
| 売買単位   | 100 株  |
| 6/28終値 | 7170 円 |
| 業種     | 電気機器   |

#### ■テクニカル分析



6787：日足

適度な調整はさみつつ長期上昇相場形成中。

(百万円)

| 会計期      | 売上高     | 前期比   | 営業利益   | 経常利益   | 前期比    | 当期利益   | 1株益(円) |
|----------|---------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 2021/3連  | 119,257 | 3.3%  | 6,657  | 5,697  | 19.0%  | 4,640  | 177.33 |
| 2022/3連  | 151,275 | 26.8% | 13,255 | 14,294 | 150.9% | 11,451 | 444.23 |
| 2023/3連  | 167,276 | 10.6% | 9,575  | 11,212 | -21.6% | 8,847  | 338.94 |
| 2024/3連  | 179,458 | 7.3%  | 11,660 | 14,267 | 27.2%  | 11,310 | 428.70 |
| 2025/3連予 | 195,000 | 8.7%  | 16,000 | 15,000 | 5.1%   | 12,500 | 475.10 |

# 日本株 注目銘柄3

## アンビスホールディングス〈7071〉プライム

### 医療施設型ホスピス「医心館」を運営、訪問サービスも開始へ

#### ■地域のかかりつけ医と連携

医療施設型ホスピス「医心館」を運営する。国により入院日数の短縮と在宅への復帰が推し進められている中、人工呼吸器を外せなくなった患者や神経変性疾患を患う人、終末期のがん患者など、退院後の行き先に困る人を受け入れている。医師は常駐しないが、地域のかかりつけ医と連携して必要な訪問診療を提供。緩和ケア病床が全国的に不足している中、補完的役割を担っている。24年3月末の施設数は87施設、定員は4379名。東日本を中心に展開している。

#### ■西日本でも施設展開へ

24年9月期上期（23年10月-24年3月）は、売上高195.92億円（前年同期比32.9%増）、営業利益53.34億円（同35.5%増）で着地。既存施設の稼働率は安定稼働の目安である82～85%を上回る87.2%で推移。また新たに11施設の開設と1施設の定員増を実施し、収益寄与した。通期では、売上高426.38億円（前期比33.3%増）、営業利益105.00億円（同21.7%増）を見込む。第3四半期は西日本初の医心館運営を開始し、また、「医ごころ」の屋号で自宅療養者向けの訪問サービスの提供も開始する計画。

#### ★リスク要因

人手不足によるスタッフの確保難など。

|        |        |
|--------|--------|
| 売買単位   | 100 株  |
| 6/28終値 | 2299 円 |
| 業種     | サービス業  |

#### ■テクニカル分析



7071：日足

75日移動平均線が下値支持線として機能。

(百万円)

| 会計期      | 売上高    | 前期比   | 営業利益   | 経常利益   | 前期比    | 当期利益  | 1株益(円) |
|----------|--------|-------|--------|--------|--------|-------|--------|
| 2020/9連  | 9,174  | 70.9% | 1,876  | 1,779  | 105.9% | 1,239 | 55.33  |
| 2021/9連  | 15,334 | 67.1% | 3,784  | 3,779  | 112.4% | 2,627 | 112.31 |
| 2022/9連  | 23,072 | 50.5% | 6,132  | 6,060  | 60.4%  | 4,279 | 88.06  |
| 2023/9連  | 31,985 | 38.6% | 8,630  | 8,541  | 40.9%  | 6,310 | 64.44  |
| 2024/9連予 | 42,638 | 33.3% | 10,500 | 10,309 | 20.7%  | 7,255 | 74.02  |



# 日本株 注目銘柄4

## アシックス〈7936〉プライム

### シューズコレクション「CELEBRATION OF SPORT Collection」を発売

#### ■新カテゴリー投入で業績への期待が高まる

スポーツの楽しさやポジティブさを表現したシューズコレクション「CELEBRATION OF SPORT Collection（セレブレーションオブスポーツコレクション）」計40品番を、7月5日からオンラインストアのほか、全国のスポーツ用品店などで順次発売する。ランニング、陸上競技、テニス、バスケットボール、サッカー、バレーボール、スケートボードなどの各競技用シューズのほか、タウンユース向けのシューズなどを展開する。今夏、各競技のトップアスリートが着用を予定しており、パリ五輪の効果も見込まれるなか、業績への期待が高まりそうだ。

#### ■1:4の株式分割で一段と流動性が向上

6月30日を基準日として1株につき4株とする分割を実施したことにより、株主数の増加のほか一段の流動性向上が見込まれる。株価が上場来高値圏で推移するなか、分割によって既存株主は保有株式の一部を売却する可能性はあろう。

#### ★リスク要因

国内自動車メーカーの生産停止。物価上昇により購買意欲低下。

|        |        |
|--------|--------|
| 売買単位   | 100 株  |
| 6/28終値 | 2461 円 |
| 業種     | その他製品  |

#### ■テクニカル分析



7936：日足

上向きで推移する25日線が支持線として機能。

(百万円)

| 会計期       | 売上高     | 前期比    | 営業利益   | 経常利益   | 前期比   | 当期利益    | 1株益(円) |
|-----------|---------|--------|--------|--------|-------|---------|--------|
| 2020/12連  | 328,784 | -13.0% | -3,953 | -6,923 | -     | -16,126 | -      |
| 2021/12連  | 404,082 | 22.9%  | 21,945 | 22,166 | -     | 9,402   | 51.38  |
| 2022/12連  | 484,601 | 19.9%  | 34,002 | 30,913 | 39.5% | 19,887  | 108.60 |
| 2023/12連  | 570,463 | 17.7%  | 54,215 | 50,670 | 63.9% | 35,272  | 192.52 |
| 2024/12連予 | 590,000 | 3.4%   | 58,000 | 53,000 | 4.6%  | 36,000  | 49.35  |

# 日本株 注目銘柄5

## 伊藤忠商事〈8001〉プライム

### バフェット氏の保有比率の引き上げへの思惑が高まる

#### ■バフェット氏傘下のアパレル会社と協業

6月7日に米国アパレル・アンダーウェアブランド「FRUIT OF THE LOOM（フルーツオブザルーム）」の、日本市場を含むアジアにおけるマスターライセンス権を取得したと発表した。5月より、まずは日本市場において、セレクトショップやアパレル専門店等の幅広い販路での展開を開始している。フルーツオブザルームは米著名投資家ウォーレン・バフェット氏率いる投資会社バークシャー・ハザウェイ傘下の企業であり、実質バフェット氏との協業の形となる。

#### ■バフェット氏効果でPBRは2倍台

バフェット氏は大手商社5社の大株主である。株価が総じて高値圏で推移し同社のPBRは2倍に上昇するなかで売却の可能性も意識されやすかったが、今回の協業によって長期保有のほか保有比率の引き上げへの思惑が高まりやすいただろう。株価は25日線を支持線とした上昇トレンドを継続。セクター内では三菱商事<8058>、三井物産<8031>と比べ相対的に良好な株価形成であり、ファンド等の資金流入が継続しそうだ。

#### ★リスク要因

旧ビッグモーター再建の遅れ。

|        |        |
|--------|--------|
| 売買単位   | 100 株  |
| 6/28終値 | 7854 円 |
| 業種     | 卸売業    |

#### ■テクニカル分析



8001：日足

25日線を支持線とした上昇トレンドを継続。

(百万円)

| 会計期       | 売上高        | 前期比   | 営業利益    | 経常利益      | 前期比    | 当期利益    | 1株益(円) |
|-----------|------------|-------|---------|-----------|--------|---------|--------|
| 2021/3連I  | 10,362,628 | -5.6% | 403,414 | 512,475   | -26.9% | 401,433 | 269.83 |
| 2022/3連I  | 12,293,348 | 18.6% | 582,522 | 1,150,029 | 124.4% | 820,269 | 552.86 |
| 2023/3連I  | 13,945,633 | 13.4% | 701,913 | 1,106,861 | -3.8%  | 800,519 | 546.10 |
| 2024/3連I  | 14,029,910 | 0.6%  | 702,900 | 1,095,707 | -1.0%  | 801,770 | 553.00 |
| 2025/3連I予 | -          | -     | -       | -         | -      | 880,000 | 614.63 |

| 日付   | 曜日 | 時間    | 内容                                  | 市場コンセンサス  | 前回数値         |
|------|----|-------|-------------------------------------|-----------|--------------|
| 7月3日 | 水  | 09:30 | サービス業PMI(6月)                        |           | 49.8         |
|      |    | 09:30 | 総合PMI(6月)                           |           | 50.0         |
|      |    | 14:00 | 需給ギャップと潜在成長率(日本銀行)                  |           |              |
|      |    |       | 連合が2024年春季生活闘争(春闘)の最終回答集計結果公表       |           |              |
|      |    |       | 新紙幣発行                               |           |              |
|      |    | 10:45 | 中・財新サービス業PMI(6月)                    |           | 54.0         |
|      |    | 10:45 | 中・財新総合PMI(6月)                       |           | 54.1         |
|      |    | 14:00 | 印・サービス業PMI確定値(6月)                   |           | 60.4         |
|      |    | 14:00 | 印・総合PMI確定値(6月)                      |           | 50.9         |
|      |    | 17:00 | 欧・ユーロ圏サービス業PMI(6月)                  | 52.6      | 52.6         |
|      |    | 17:00 | 欧・ユーロ圏総合PMI(6月)                     | 50.8      | 50.8         |
|      |    | 18:00 | 欧・ユーロ圏生産者物価指数(5月)                   | -4.5%     | -5.7%        |
|      |    | 21:00 | ブ・鉱工業生産(5月)                         |           | -0.5%        |
|      |    | 21:15 | 米・ADP全米雇用報告(6月)                     | 16.3万人    | 15.2万人       |
|      |    | 21:30 | 加・貿易収支(5月)                          |           | -10.5億加ドル    |
|      |    | 21:30 | 米・新規失業保険申請件数(先週)                    |           | 23.3万件       |
|      |    | 21:30 | 米・貿易収支(5月)                          | -712億ドル   | -746億ドル      |
|      |    | 22:00 | ブ・サービス業PMI(6月)                      |           | 55.3         |
|      |    | 22:00 | ブ・総合PMI(6月)                         |           | 54.0         |
|      |    | 22:45 | 米・サービス業PMI(6月)                      |           | 55.1         |
|      |    | 22:45 | 米・総合PMI(6月)                         |           | 54.6         |
|      |    | 23:00 | 米・製造業受注(5月)                         | 0.3%      | 0.7%         |
|      |    | 23:00 | 米・ISM非製造業景況指数(6月)                   | 52.5      | 53.8         |
|      |    | 25:00 | 露・GDP(1-3月)                         |           | 5.4%         |
|      |    |       | 米・連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(6月11日-12日会合分) |           |              |
|      |    |       | 欧・ニューヨーク連銀総裁がECBフォーラムのパネル討論会に参加     |           |              |
|      |    |       | 欧・ラガルドECB総裁がECBフォーラムで閉会の辞           |           |              |
|      |    |       | カザフスタン・上海協力機構(SCO)首脳会議(4日まで)        |           |              |
|      |    |       | 独・10年債入札                            |           |              |
| 7月4日 | 木  | 08:50 | 対外・対内証券投資(先週)                       |           |              |
|      |    | 10:30 | 豪・貿易収支(5月)                          | 66.50億豪ドル | 65.48億豪ドル    |
|      |    | 14:45 | スイス・失業率(6月)                         | 2.2%      | 2.3%         |
|      |    | 15:00 | 独・製造業受注(5月)                         | 1.0%      | -0.2%        |
|      |    | 27:00 | ブ・貿易収支(6月)                          |           | 85.34億ドル     |
|      |    |       | 米・株式市場は祝日のため休場(独立記念日)               |           |              |
|      |    |       | 英・総選挙                               |           |              |
| 7月5日 | 金  |       | 欧・欧州中央銀行(ECB)議事要旨(6月会合)             |           |              |
|      |    | 08:30 | 家計支出(5月)                            | 0.2%      | 0.5%         |
|      |    | 14:00 | 景気先行CI指数(5月)                        |           | 110.9        |
|      |    | 14:00 | 景気一致指数(5月)                          |           | 115.2        |
|      |    | 15:00 | コール市場残高(6月、日本銀行)                    |           |              |
|      |    | 15:00 | 独・鉱工業生産指数(5月)                       | 0.3%      | -0.1%        |
|      |    | 18:00 | 欧・ユーロ圏小売売上高(5月)                     | 0.5%      | -0.5%        |
|      |    | 21:30 | 加・失業率(6月)                           | 6.3%      | 6.2%         |
|      |    | 21:30 | 米・非農業部門雇用者数(6月)                     | 18.5万人    | 27.2万人       |
|      |    | 21:30 | 米・失業率(6月)                           | 4.0%      | 4.0%         |
|      |    | 21:30 | 米・平均時給(6月)                          | 3.9%      | 4.1%         |
|      |    |       | 印・外貨準備高                             |           |              |
| 7月7日 | 日  |       | 米・ニューヨーク連銀総裁が基調講演                   |           |              |
|      |    |       | 欧・ラガルドECB総裁が講演                      |           |              |
|      |    |       | 東京都知事選                              |           |              |
|      |    |       | 中・外貨準備高(6月)                         |           | 3兆2320億4千万ドル |
|      |    |       | 仏・国民議会(下院)選挙の第2回投票                  |           |              |
| 7月8日 | 月  | 08:30 | 勤労統計調査-現金給与総額(5月)                   |           | 2.1%         |
|      |    | 08:50 | 国際収支・経常収支(季調済)(5月)                  |           | 2兆5241億円     |
|      |    | 08:50 | 国際収支・貿易収支(5月)                       |           | -6615億円      |
|      |    | 14:00 | 景気ウォッチャー調査-現状判断DI(6月)               |           | 45.7         |
|      |    | 15:00 | 独・貿易収支(5月)                          |           | 221億ユーロ      |
|      |    | 28:00 | 米・消費者信用残高(5月)                       |           | 64.0億ドル      |
| 7月9日 | 火  | 08:01 | 小売連合(BRC)小売売上高調査(6月)                |           | 0.4%         |
|      |    | 09:30 | 豪・ウェストパック消費者信頼感指数(7月)               |           | 83.6         |
|      |    | 10:30 | 豪・NAB企業景況感指数(6月)                    |           | 6            |
|      |    | 23:00 | 米・パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、発言            |           |              |

重要事項（ディスクレーマー）

当レポートは株式会社時事通信社が企画し、株式会社フィスコが編集しております。当レポート上で提供している内容は、信頼に値すると判断した情報を基に作成されていますが、あくまでも情報提供が目的であり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。当レポートに基づいて投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、フィスコは保証を行っておらず、理由のいかなを問わず責任を負いません。投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願い致します。

株式会社時事通信社 株式会社フィスコ

# J Trust Global Securities

## Weekly Market Report

### 【ご投資にあたって】

本レポートの記載の内容を参考にしてお取引をされる場合、店舗における国内の金融商品取引所に上場する株式（売買単位未満を除く）の場合は約定代金に対して最大1.1524%（税込）（但し約定代金の1.1524%（税込）に相当する額が3,300円（税込）に満たない場合は3,300円（税込）の委託手数料をご負担いただきます。また、株式相場、金利水準、不動産相場、商品相場等の価格の変動等及び有価証券の発行者の信用状況（財務・経営状況含む）の悪化等、それらに関する外部評価の変化等により損失が生じるおそれ（元本欠損リスク）があります。尚、信用取引などを行う場合には、対象となる株式等または指標等の価格変動により損失の額がお客様の差し入れた委託保証金などの額を上回るおそれ（元本超過損リスク）があります。尚、商品毎に手数料及びリスク等は異なりますので、当該商品の目論見書及び契約締結前交付書面をよくお読みください。

### 【免責事項】

本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されたものですが、当社はその正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。本資料に基づき投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、当社は、理由の如何を問わず責任を負いません。本資料は、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の銘柄等の勧誘、売買の推奨または相場動向の保証等を行うものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、本資料をお客様ご自身のためにのみ、お客様の限りでご利用ください。尚、当社の事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

### 【利益相反情報について】

当社および関係会社又はその役職員は、本資料に記載された証券についてポジションを保有している場合があります。また、本資料に記載された会社に対して、引受等の投資銀行業務、その他のサービス提供の勧誘を行なう場合があります。当社の役員（会社法に規定する取締役、監査役又はこれに準ずる者をいう。）が、以下の会社の役員を兼務しております。

Jトラスト株式会社、株式会社KeyHolder、株式会社フォーサイド

### ■Jトラストグローバル証券株式会社 本支店リスト■

|              |           |                                  |              |
|--------------|-----------|----------------------------------|--------------|
| 本社営業部        | 〒150-6007 | 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー7階 | 03-4560-0219 |
| 葛飾支店         | 〒124-0012 | 東京都葛飾区立石7-4-13                   | 03-3693-0081 |
| 横浜支店         | 〒231-0015 | 神奈川県横浜市中区尾上町2-18-1 YSビル1階        | 045-680-4355 |
| 名古屋支店        | 〒450-0002 | 愛知県名古屋市中村区名駅3-25-9 堀内ビルディング2階    | 052-686-5940 |
| 大阪支店         | 〒530-0002 | 大阪府大阪市北区曽根崎新地1-4-10 銀泉桜橋ビル3階     | 06-6442-3040 |
| 福岡支店         | 〒810-0001 | 福岡県福岡市中央区天神2-13-18 天神ホワイトビル1階    | 092-736-6021 |
| プライベートバンキング部 | 〒150-6007 | 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー7階 | 03-4560-0221 |
| インターネット取引    | 〒150-6007 | 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー7階 | 03-4560-0300 |
| コールセンター取引    | 〒150-6007 | 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー7階 | 03-4560-0350 |